

2. 日本の商品別国・地域別貿易指数（2004年版）

日本経済のデフレ傾向は残るものの、輸出や設備投資の拡大で日本経済にも明るい兆しが見えてきた。特に対アジアを中心に輸出入ともに大きく伸び、日本の貿易黒字は2000年以来、再び10兆円を超えた。一方、2003年の米国は、輸入の急増から貿易赤字は4,000億ドルに迫る水準に達しているにもかかわらず、日本の対米貿易赤字は逆に縮小している。日本の貿易黒字は、主として対アジアで拡大しているが、近年の日本経済のアジア経済への依存の増大は、日本経済の構造変化とも深く結びついている。

こうした認識のもと、本報告書では、日本の品目別、地域別の輸出入の数量指数、価格指数を作成し、これらの指数を用いて日本の貿易構造を分析した。上記のような日本の貿易構造変化の実体は、金額ベースだけでは正確に把握できず、数量と価格の要因に分けて分析することが重要である。これによって地域ごとの輸出入変化がより明確となると同時に、国別の貿易構造変化などの分析が可能となる。

本報告書では、付表1として部品類も含めた機械類を中心に、機械種別に輸出入数量指数、金額指数、価格指数を掲載した。また、付表2、3にはそれぞれ商品特殊分類別、製品と主要商品分類基準別の貿易指数を掲載した。いずれも、対世界、米国、EU15、NIEs、ASEAN4、中国、東アジアの7地域別に指数を算出している。さらに、付表4には、アジア主要8ヶ国（韓国・台湾・香港・シンガポール・タイ・マレーシア・フィリピン・インドネシア）別の主要商品の貿易指数も掲載した。また暦年データは1996年～2003年を円ベースとドルベースで、四半期データは2000年～2003年を円ベースでそれぞれ示してある。

* Microsoft Excel形式の電子媒体の利用も可能である。